

2025年度 第7回 Kリーグ実施要項

【目的】健全なスポーツ観に基づく豊かなスポーツ環境を構築する

1. 「補欠ゼロ」の豊かなクラブ育成<チームからクラブへ>
 - 1) 誰もがゲームに参加できる
 - 2) 練習への動機づけとなる
 - 3) 「リーグ戦」が経験できる
2. 強いチームとたくましい個の育成<レベルアップ>
 - 1) 同程度の相手と切磋琢磨できる
 - 2) レベルやニーズに合わせた活動ができる
3. ハンドボールを支える人材の育成<自主運営と受益者負担>
 - 1) 「スポーツの主人公」を育てる
 - 2) コートを取り巻く多様な人材を育てる

【参加費】

1 チーム 13,000円

<内訳>

- ・ 審判費（交通費込）（1,500円×2名×36試合） 108,000円
- ・ MVP商品（1,000円程度×36試合） 36,000円
- ・ 賞状代（順位、ベスト7、得点王など） 5,000円

合計 149,000円

1チーム当たり149,000円÷12チーム=12,417円

【参加チーム・選手資格及び登録手続き】

1. 参加チーム資格

- 1) 選手 … 原則として18歳以下の選手で構成される
- 2) 審判 … 指定された試合で審判が出せる（有資格者であることが望ましい）
- 3) 付添 … 試合の際に大人（20歳以上）が付き添い、事故があった場合は各チームで対処できる
- 4) コート … ホーム戦では試合会場を主催できる（確保でき、かつ主催できることが望ましいが、お互いのやりくりで、主催だけでも可）

2. 選手資格

選手は、各学校、またはクラブチームの所属であることを原則とする

3. 登録手続き

各試合の開始 30 分前までにメンバー表（登録 20 名）を相手チームと本部に提出する

【大会形式】

- ・ 男子は 1 部リーグ、2 部リーグそれぞれ 4 チームずつ、女子は 3 チームで 2 回戦総当り方式のリーグ戦を行う。
- ・ 男子は 1 部リーグの 4 位と 2 部リーグの 1 位、また 1 部リーグの 3 位と 2 部リーグの 2 位が入れ替え戦を行う。ただし、同校同士の入れ替え戦は実施しない。代わりに、2 部リーグの次順位のチームが入れ替え戦に出場する。
- ・ 男子の入れ替え戦の試合形式は以下のように行う。
 - 1 回戦制で行われ、勝ちチームが次年度 1 部リーグ所属となる。
 - 既定の時間内で勝敗が決しない場合、7mTC（5 名ずつ）とする。
- ・ 3 月末までに、男女ともにリーグ戦を終了する。

【リーグ戦の順位決定】

- ・ 各リーグ戦が終了した時点で、次の各項の順序にて順位を決定
 - ① 勝ち点
 - ※ 勝ち点獲得条件
 - 3 ポイント：勝ち（3 勝-0 分-0 敗）
 - 2 ポイント：勝ち（2 勝-0 分-1 敗、2 勝-1 分-0 敗）
 - 1 ポイント：引き分け（1 勝-1 分-1 敗、0 勝-3 分-0 敗）
負け（1 勝-0 分-2 敗、1 勝-2 分-0 敗）
 - ② セット率（得セット／失セット）
 - ③ 得点率（得点／失点）

【表彰】

- ・ 1 位から 3 位までに賞状を授与する
- ・ 試合毎に「Most Valuable Player (MVP)」を選出し、表彰する
- ・ 得点ランキングトップの選手を表彰し、賞状を授与する
- ・ ベスト 7 を表彰し、賞状を授与する

【競技規則】

2025 年度日本ハンドボール協会競技規則に従って実施することを原則とする

1) 試合時間と勝敗の決定

- ・ 本大会の試合時間は、15 分-5 分-15 分-5 分-15 分（3 ピリオド制）とする
- ・ 各ピリオドにおいて、決めた点数の多いチームがセットを取得する
- ・ 各ピリオドにおいて、同点だった場合は引き分けとする
- ・ 取得したセット数が多いチームの勝利とする
- ・ 取得したセット数が同数だった場合は引き分けとする

2) メンバー表

- ・ 試合開始 30 分前までに、メンバー表（登録 20 名）を、相手チームと本部に提出する

3) 選手交代

- ・ 登録メンバーは、1 ピリオド以上連続して試合に出場する

4) ボール

- ・ 中学生と高校生が対戦する試合においては、ボールチェンジを実施する

5) その他

- ・ 各ピリオド、1 回のチームタイムアウトを採用する
- ・ **New!!** チームタイムアウトを望むチームは、チーム役員が笛を吹いて請求しなければならない
- ・ 5 分の休憩時間は、以下のように用いること（目安）

時間（分）	選手	指導者（監督・コーチ）
0～1	選手同士でミーティング	指導者同士でミーティング
1～4	選手と指導者でミーティング	

- ・ 指導者や監督などは、選手に対して絶対に怒ってはいけない
- ・ 指導者や監督だけではなく、選手も審判に対して絶対に怒ってはいけない
- ・ 指導者や監督などは、試合中は選手に「声掛け」をしてもよい

※ 「声掛け」とは、問いかけ、鼓舞、動機づけなどに相当する